

**A 大学をモデルとした福祉系大学におけるキャリア形成支援について****ーキャリア関係科目のシラバス試案ー**

○ 関西福祉大学 藤原 慶二 (6433)

キーワード3つ：キャリア教育、生活と労働、シラバス試案

**1. 研究目的**

本報告は福祉系大学におけるキャリア形成支援について、A 大学をモデルに学内で開講されるキャリア関係科目のシラバス試案を明らかにすることを目的とする。ここでいう福祉系大学とは社会福祉士養成課程を有する大学のことである。

2010（平成 22）年、大学設置基準が改正され、すべての大学でキャリア教育が義務化された（大学設置基準第 42 条の 2）。以下の 3 つの報告で福祉系大学におけるキャリア形成支援について A 大学をモデルに一定の整理を行ってきた。

- ① 藤原慶二・菅由希子（2011）「福祉系大学とキャリア形成に関する一考察ーA 大学の実践からー」日本社会福祉学会第 59 回大会
- ② 藤原慶二・菅由希子（2012）「福祉系大学におけるキャリア形成支援のあり方についてー専門教育、キャリア教育、教養教育の体系の検討ー」日本社会福祉学会第 60 回大会
- ③ 萬代由希子・藤原慶二（2013）「A 大学をモデルとした福祉系大学におけるキャリア形成支援ーキャリア教育の導入の意義と社会福祉士養成課程との関係ー」日本社会福祉学会第 61 回大会

そして、これまでの整理をキャリア関係科目のシラバスに反映しなければならない。そこには、福祉系大学である以上、社会福祉士養成課程を見据えないわけにはいかない。これらのことを踏まえ、福祉系大学で開講するキャリア関係科目のシラバス試案を提示する。

**2. 研究の視点および方法**

研究の視点として福祉系大学で取得する社会福祉士の核となる「生活」に焦点を当てる。これまでのキャリア教育は「労働」や「働く」といった就職に焦点が当てられていた。キャリア形成支援だからといって「就職（労働や働く）ありき」ではない。まずは「生活」から考えなければならない。なぜなら、福祉系大学では将来の仕事として想定されるのが生活支援だからである。その「生活」について自分（支援者）自身が確固たる視点を持たなければならない。つまり、自分自身のキャリアを考える上で労働や働くだけの視点では対象者の生活を支援することに課題を抱えることになる。

研究の方法としては A 大学をモデルとして 4 年間のキャリア教育を含むキャリア形成支援についてその流れと関係を明らかにする。そして、キャリア関係科目のシラバス試案について①キーワードの設定、②それらの体得に必要な内容の精査、③テーマの設定と各回の内容を検討する。さらには、本報告におけるシラバス試案がどのような意味を持ち、どう展開していくのかを明らかにする。

### 3. 倫理的配慮

本報告は日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守している。

### 4. 研究結果

福祉系大学におけるキャリア形成支援で必要な視点は「生活」と「労働」である。この二つの視点を基礎としたキャリア関係科目のシラバス試案を以下のように明らかにした。なお、ここで挙げたシラバス（試案）は1年次生前期に開講するものを想定している。

テーマ	回	内容
学生生活の充実 に向けて	第1回	大学教育とキャリア理論
	第2回	大学での学びの意義
	第3回	学生生活を充実させるには
キャリア理論	第4回	働く意義と社会が求める人材【外部講師】
	第5回	キャリア理論1【外部講師】
	第6回	キャリア理論2【外部講師】
ライフストーリー	第7回	「目標・好きだったこと」に注目したライフストーリー
	第8回	自分の言葉でライフストーリーを話す
進路の選択肢	第9回	大学卒業後の進路を知る
	第10回	現場で働く社会人のライフストーリーを聞く
	第11回	多様な進路の選択肢を考える
	第12回	人と関わる仕事に就くということ
人と関わる	第13回	ワールドカフェ：今の自分を語る
	第14回	ワールドカフェ：将来の自分を語る
	第15回	振り返り・まとめ

生活から就職を考える上で、14回（15回目は「振り返り・まとめ」のため）を5つのテーマで分けた。そして、それに関する内容について流れを意識しながら構成した。

### 5. 考察

これまでのキャリア形成支援では「就職」に焦点が当てられていた。と同時に、キャリア関係科目でも同様のことが言える状況であった。それは、「生活」を基礎として考えることが難しい状況であることを意味している。このようなキャリア形成支援が今日の労働環境に暗い影を落としている。そこで、まずは何よりも自分自身の「生活」を意識することを起点としたシラバス試案を作成した。だからといって、「生活」だけに焦点化するのではなく、その先には「就職（労働や働く）」がある。障害者の自立生活の考え方に基づけばこのような流れになることは必然ではないだろうか。

また、キャリア関係科目では外部の専門家（キャリアカウンセラーやキャリアコンサルタントなど）の協力は不可欠である。だからといってこの科目を完全外部委託で対応することは難しい。なぜなら、学生の状況は学内教員でなければわからないからである。つまり、学生状況に即したキャリア形成支援とするためには学内教員の存在は不可欠となる。

なお、考察内容の詳細については当日のレジュメおよび口頭発表により報告する。